

ループリックを活用しよう

初任者研修の講義を担当するなど、少し発行に間が開いてしまいましたが再開します。これまで、ループリックは終末の自己評価やふりかえり、総括評価の観点で紹介しました。そもそも、ループリック評価が日本で注目されたのは、「総合的な学習の時間」(以下。「総合」)の評価としてです。「総合」の評価と言えばポートフォリオですが、その具体的な手段として用いられたのがループリックです。「総合」といえば様々な教育的活動が取り入れられており、活動場面を評価(いわゆるパフォーマンス評価)をするために、ループリックが指標として扱われたのです。このときのポイントとなるのは、子供たちにパフォーマンスをする前にループリックを示しておくことです。事前に示すことで、子供たちはA評価を目指して学習に臨みます。到達目標(活動のGoal)という見通しをもって取り組むことができるのです。「総合」の活動は、なんとなくだらだらと活動が続くことが多いです。本時の到達目標がわからずに継続されていくことが多いので、授業の初めにループリックを示し、授業の終わりに自己評価を行う。それを毎回ポートフォリオしていくことで、評価につなげていくことが望ましいということです。

実際にループリックを活用した評価の場面を紹介します。「総合」の時間ではありませんが、昨年うちのゼミ生が英語の授業で活用し研究したものを紹介します。英語のルーティーンで行っていた1 minutes chatでループリックを活用しました。授業の初めの導入部分で、ペアで1分間、決められたテーマで話し合い活動を行うことを1 minutes chatといいます。まず、テーマを設定し子供たちに提示します。今回は3連休を終えた後ということもあり「What did you do last 3 holidays?」というテーマで実践しています。もちろん、子供たちにとっては不慣れな1 minutes chatでもあるので、取り組む前に教師からモデルも見せています。そのあと、会話が続きやすいようにつなぎ言葉を紹介しています。つなぎ言葉とは「me too」「Really」「How about you」などの言葉で、このような言葉を発することで、次の言葉が出てきやすいように、会話を促す言葉となります。1 minutes chatを始める前にこのような言葉を紹介しておき、会話が続きやすいように工夫をしています。そして、このような言葉が使えるよう意識するため、ループリックでも項目の中に取り入れているのです。このように、ループリックは、活動を終わってから見せるのではなく、活動する前に見せることで、A評価を目指すため、活動のゴールを目指して取り組むことができるのです。子供たちにとって、活動とは目的がわかりづらく作業的な活動を淡々とこなすことになりがちですが、ループリックを示すことで活動の目的がはっきりとしてくるのです。例として示しているループリックは、「態度」を観点としたものになります。子供にとってもこの活動がどのような視点で頑張ればいいのかよくわかりますよね。このように、観点をしっかりと明確にして示すことが、つけたい力が明確になると言えます。

(モデル会話と使用したループリックは裏面を参照してください)。